



保健センターのとりくみの紹介

# キャンパス内 感染予防と 危機管理

## 感染症対策 委員会の設置

結核が再び増加し始めたことを受け、立命館大学では2001年5月に「感染症対策委員会」を設置しました。委員会では、感染症に対する正しい認識を広めるとともに、学内における感染症蔓延の予防と対策を協議し、学生・教職員の健康を守るための活動を展開しております。

今年度は、SARS(重症急性呼吸器症候群)に関する種々の対策の検討・実施について、中心的な役割を果たしてきました。

## SARS対策の 推進

今春世界中にパニックをもたらしたSARSについての情報を、保健センターでは既に3月15日の時点で入手し、春期休暇中に海外旅行に出ている学生や留学生の動向の確認に速やかに着手するとともに、ホームページに情報を掲示しました。WHO(世界保健機構)が香港および中国広東省への渡航延期を勧告したのが4月2日ですから、かなり迅速な対応であったと言えます。4月

17日には感染症対策委員会を開催し、大学としての対策を決定いたしました。

幸い、6月になってSARSは一旦終息を迎えましたが、冬の再燃が危険視されるなか、7月に感染症対策委員会を開き、長期的視野に立った留学プログラムの実施などを検討しました。保健センターの医師も、専門的立場から、意見を述べて来ました。結果として他大学に比してかなり慎重な対応を続けることが決定されました。今年の冬に再流行の可能性がある限り、今春流行した地域での長期留学プログラムは延期されることになりました。

## インフルエンザ 対策

立命館大学では学生の皆さんに、学内および近隣の病院において安い費用でインフルエンザの予防接種が受けられるような取り組みをいたしました。インフルエンザは、それ自体が比較的重篤な病態を引

き起こすのみならず、SARSの症状と酷似しているため、一旦SARSが流行するとかなりの混乱が予想されています。従って、本年度は可能な限り多くの大学関係者に予防接種を受け

てもらいたいと考えており、教職員に対しても11月の定期健康診断の時に700名以上に予防接種を実施しました。学生の皆さんに対する予防接種の実施についても、保護者の皆様のご理解を賜り、接種を勧めて頂く様お願い致します。

## 風疹の 予防接種

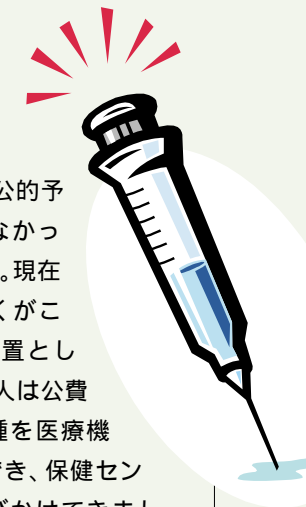
風疹とは、一般に「三日ばしか」とも呼ばれている病気です。風疹の公的予防接種は、以前は中学生の女子を対象に行われていましたが、現在は小学生の男女を対象に行われています。昭和54(1979)年4月2日～昭和62(1987)年10月1日生まれの人は、ちょうど予防接種の方法を変更したために、小学生の時に

も、中学生の時に公的予防接種対象にならなかった世代に当たります。現在在学中の学生は多くがこの年代です。経過措置として、これらの世代の人は公費負担で風疹予防接種を医療機関で受けることができ、保健センターでも接種を呼びかけてきましたが、経過措置も今年9月30日で終了しました。もしもまだ予防接種を受けてないご息がおられましたら、自費になりますがぜひ受診されることをお勧めいたします。

## 麻疹の 予防接種

麻疹(はしか)は伝染力が強く、発熱、咳、鼻汁、目やに、発疹を主症状とします。麻疹の予防接種は、国内では1978年から小児への予防接種法に基づく定期接種が開始されましたが、接種率が低いため、1984年、1991年、2001年に全国的に流行したほか、近年もなお、小中規模の地域的流行が繰り返されており、成人麻疹の増加も問題となっています。幸い立命館大学では流行を経験していませんが、幾つかの大学では大きな流行が報告され、対策の必要性が叫ばれています。

保護者の皆様方には、保健センターの活動に日頃よりご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。保健センターでは定期健康診断を実施したり、日々の診療を通して学生の皆さんの身体的・精神的健康の維持・増進を図るのみならず、感染症予防をはじめとする学内の公衆衛生を守る活動も積極的に行っています。今回はその一端をご紹介しますとともに、保護者の皆様にもご協力を賜りたく存じます。



小児期に罹患していない、あるいは予防接種を受けていないという方には、積極的に予防接種を受けていただくようお願い申し上げます。特に海外留学・海外旅行を計画している方は必須であるのご理解ください。

## 母子手帳の 保存と疾病記録 のお願い

近年、海外に留学する学生が増加しています。特に米国留学の際には水痘症(みずぼうそう)麻疹(はしか)風疹(三日ばしか)流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)破傷風、B型肝炎などの予防接種あるいは罹患の証明が求められます。保健センターでは母子手帳を基に、これらの証明書の作成をしておりますが、母子手帳を紛失していたり、記載が不備であるために証明書を完成できないことがあります。血液検査で抗体の有無を証明することも可能ですが、非常に高額です。どうかこれらの書類は大切に保管下さいませようお願い申し上げます。また、予防接種を受けておらず、かつ罹患し

たことが証明できないような場合には予防接種を受けていただく必要が生じる場合もあります。一回の接種で終了するものもありますが、多くは2回から3回、1ヶ月以上の間隔をあけて接種する必要があるため、留学をお考えの場合は、期間に余裕を持って保健センターに相談に行くようにご指導頂きたいと思っております。

## 風邪の予防

これからの時期は風邪やインフルエンザの季節です。予防の原則は、①規則正しい日常生活を送ること、②栄養バランスの取れた3度の食事をとること、③疲れをためないこと(十分な睡眠・休養)などを通して日々の健康管理をすることです。「うがいと、手洗いの励行」も忘れてはなりません。基本的な感染予防こそ重要です。なお保健センターでも、今年は「手洗い励行キャンペーン」の実施も検討しています。ご自宅におかれましても、これらの点を今一度ご確認ください。

